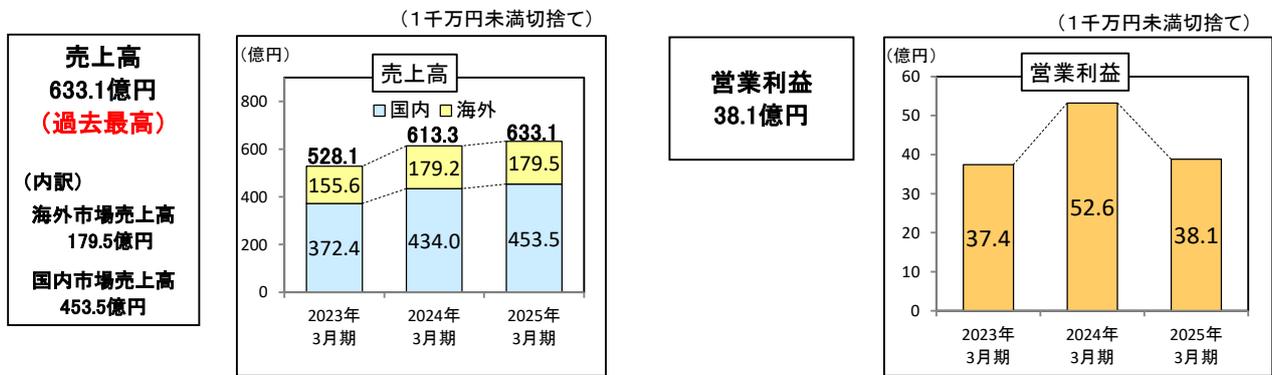


アイホン株式会社 2025年3月期決算(連結)のポイント

売上高 海外市場において、前期のバックオーダーの解消に伴う一時的な売上増加に対する反動減が見られたものの、国内集合住宅市場の賃貸マンション向けリニューアルを中心に売上が増加し、過去最高の売上高となりました。

利益 増収による増加はあるものの、研究開発費等の経費の増加や為替の影響により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はすべて大幅に減少いたしました。



〔売上〕

国内市場全体で19.5億円の増加(前期比 4.5%増加)

◆住宅市場

他社採用先への積極的な受注活動により戸建住宅市場の売上が増加し、さらに、賃貸マンション向けを中心に、集合住宅市場のリニューアル売上が増加。

住宅市場全体として21.3億円の増加。(前期比 6.5%増)

戸建住宅市場

- ◎防犯意識の高まりを背景としたリニューアル売上の増加。
- ◎他社採用先への積極的な受注活動の奏功。

集合住宅市場

- ◎リニューアルにおけるセキュリティニーズは高水準を維持。
- ◎賃貸マンション向け商品『PATMO α』を中心にリニューアル売上が好調に推移。

◆ケア市場

「見守り支援」ニーズに対応する課題解決型提案が奏功し、高齢者施設向けの売上が増加したものの、新築及びリニューアルともに前期の販売水準に至らず売上が減少。

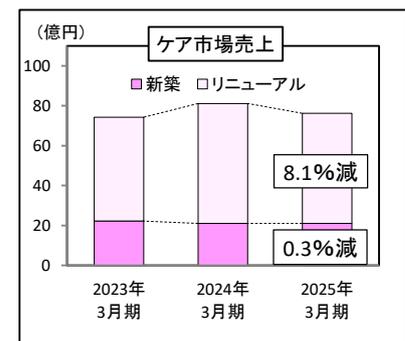
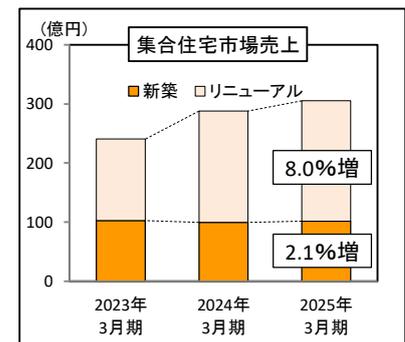
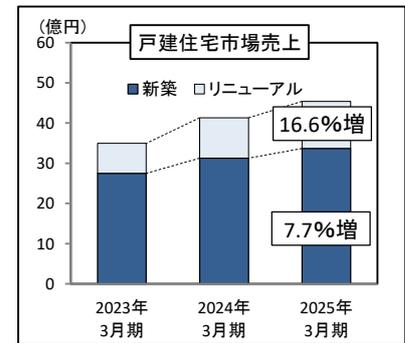
ケア市場全体として4.9億円の減少。(前期比 6.0%減)

ケア新築市場

- ▲新築着工数の減少。

ケアリニューアル市場

- ▲前期の商品供給の安定化に伴う一時的な売上増加に対する反動減。
- ◎病院、施設等で「見守り支援」ニーズが高水準を維持。



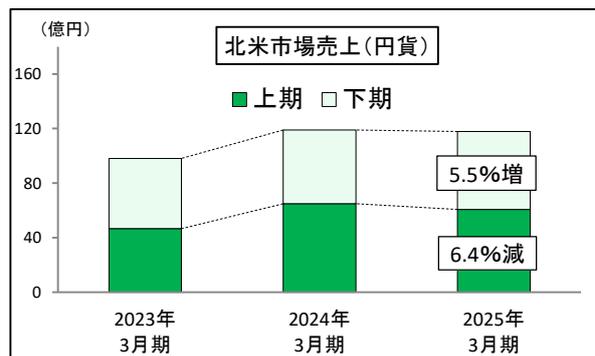
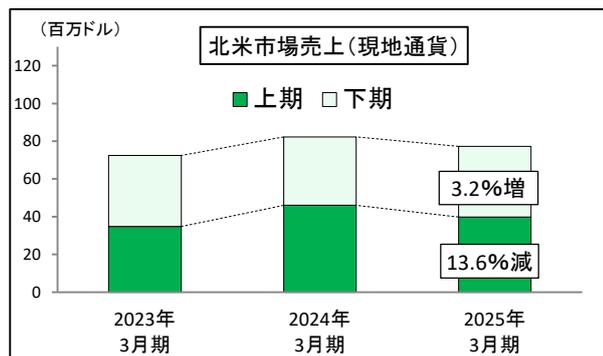
国内市場

集合住宅市場の賃貸マンション向けリニューアル売上が増加したこと等により、国内市場全体で前期比 4.5%の増加。

海外市場全体で0.2億円の増加(前期比 0.1%増)

◆北米市場 現地通貨ベースで減少(前期比 6.2%減) 円貨ベースでは1.2億円の減少(前期比 1.0%減)

- ▲集合住宅市場の中心である東海岸都市部において、競合企業からの価格攻勢が激化し販売が苦戦。
- ▲前期のバックオーダー解消による売上増加に対する反動減。



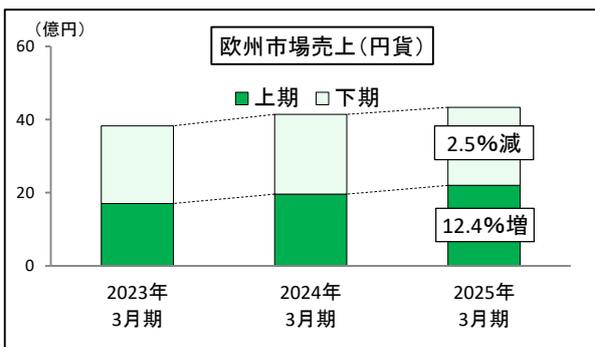
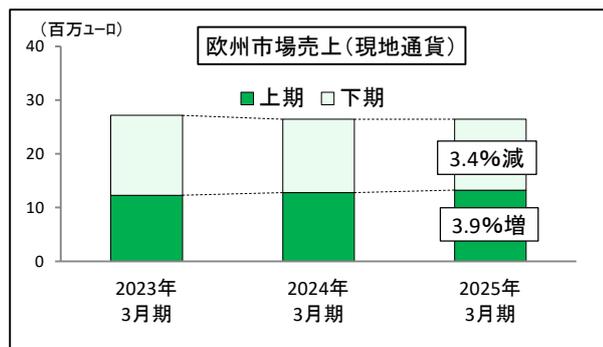
◆欧州市場 現地通貨ベースで増加(前期比 0.1%増) 円貨ベースでは1.8億円の増加(前期比 4.5%増)

フランス

- ◎業務市場に向けたソリューション提案を強化したことが奏功し、IPネットワーク対応インターホンシステムの販売が好調に推移。
- 欧州経済の停滞は緩やかな回復基調。
- ▲戸建住宅市場の新築着工戸数が大幅に減少し、主力テレビドアホンの販売が減少。

イギリス

- ▲集合住宅市場は販売が好調に推移したものの、IP化のニーズが高まる業務市場でのIPネットワーク対応システムの競争環境が激化し販売が減少。



海外市場

主力の北米市場において、前期のバックオーダー解消による一時的な売上増加に対する反動減とともに、価格改定前の駆け込み需要の影響による一部商品の販売の鈍化等が影響し、現地通貨ベースでは売上が減少。円貨ベースでは為替の影響により北米市場の売上に好影響を及ぼし、海外市場全体の売上高は前期比0.1%の増加。

〔利益〕

営業利益 14.5億円の減少(前期比 27.6%減)
 経常利益 19.6億円の減少(前期比 32.1%減)
 親会社株主に帰属する当期純利益 10.2億円の減少(前期比 22.1%減)

- ▲売上高が増加したものの、研究開発費等の経費増加により営業利益が減少。
- ▲為替の影響により各利益が減少。